

氏名 (法人にあっては名称)	株式会社 マルハニチロ食品
住所	東京都江東区豊洲3-2-20
計画期間	平成22年4月1日～平成25年3月31日
基準年度(*1)	平成21年度

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上 (特定事業者) <input type="checkbox"/> (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上 (特定事業者) <input type="checkbox"/> (3)特定事業者以外の事業者
------------	---

2 事業の概要

事業者の業種	冷凍調理食品製造業 (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号： 0995)
事業概要	冷凍食品の製造

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	平成 21 年度	平成22～24年度 (平均値)	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成22～24年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*5)	8,660 t-CO ₂	8,400 t-CO ₂	8,338 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		3.0 %	3.7 %	%	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*6)		8,400 t-CO ₂	8,338 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		3.0 %	3.7 %	%	%	%
実績に対する 自己評価	環境法規制対応及び作業環境の改善を目的として脱臭脱煙設備を増強等により、電力及び重油使用量が増加し、生産数量が減少し原単位悪化。					

- *1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。
- *2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。
- *3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。
- *4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素(エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの)、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六ふっ化硫黄)の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。
- *5 温室効果ガス実排出量とは、上記(*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。
- *6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標の達成状況 (※任意記載)

(※原単位の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$)

事業分類	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	平成 21 年度	平成22~24年度 (平均値)	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成22~24年度 (平均値)
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
原単位の指標及び実績に対する自己評価						

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

エネルギーを消費する設備の使用合理化に努める。
 合理化計画内容 (下記)
 蒸気系統の改善による燃料使用量の削減 (運転制御改善、断熱強化、ドレン処理改善) H23年 3KL
 冷凍機冷却水ポンプ・ファン・ブロワのインバーター制御化による電力使用量の削減 H23年
 ~24年 7KL
 トップランナー変圧器への更新による電力損失の低減 H25年 15KL
 廃熱回収設備導入による直燃式脱臭脱煙設備燃料使用量削減 H24年 20KL
 蒸気自動送気システム導入による重油使用量の削減H24年 3KL
 設備稼働状況に応じた給排気ファンの速度制御・照明器具及び換気扇などセンサ、タイマ制御H23~2
 5年 2KL
 蒸気 (電気) 駆動廃熱回収エアコンプレッサー導入による電力使用量及び重油使用量の削減H25~26
 年 20KL

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値(*8)の活用等)

特になし

4 その他の取組の実施状況

製造工場における以下の取り組みを実施
 省エネ・省資源に関する改善活動の推進 (ポルフ活動)
 省エネ委員会の開催による省エネ活動推進

*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。
 *8 環境価値とは、ワセツクレジット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	株式会社マルハニチロ食品 広島工場
事業所の所在地	広島市中区江波沖町6-1
事業所の業種	冷凍調理食品製造業
事業の概要	冷凍食品の製造

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	平成 21 年度	平成22~24年度 (平均値)	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成22~24年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量 (*4)	8,630 t-CO ₂	8,371 t-CO ₂	8,313 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		3.0 %	3.7 %	%	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		8,371 t-CO ₂	8,313 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		3.0 %	3.7 %	%	%	%
実績に対する 自己評価	環境法規制対応及び作業環境の改善を目的として脱臭脱煙設備を増強等により、電力及び重油使用量が増加し、生産数量が減少し原単位悪化。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

<p>エネルギーを消費する設備の使用合理化に努める。 合理化計画内容 (下記) 蒸気系統の改善による燃料使用量の削減 (運転制御改善、断熱強化、ドレン処理改善) H23年 3KL 冷凍機冷却水ポンプ・ファン・ブロワのインバーター制御化による電力使用量の削減 H23年~24年 7KL トップランナー変圧器への更新による電力損失の低減 H25年 15KL 廃熱回収設備導入による直燃式脱臭脱煙設備燃料使用量削減 H24年 20KL 蒸気自動送気システム導入による重油使用量の削減H24年 3KL 設備稼働状況に応じた給排気ファンの速度制御・照明器具及び換気扇などセンサ、タイマ制御H23~25年 2KL 蒸気 (電気) 駆動廃熱回収エアコンプレッサー導入による電力使用量及び重油使用量の削減H25~26年 20KL</p>
--

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値の活用等)

特にナシ

2 その他の取組の実施状況

<p>製造工場における以下の取り組みを実施 省エネ・省資源に関する改善活動の推進 (ポルフ活動) 省エネ委員会の開催による省エネ活動推進</p>
--